参考資料4

第３回　杉並区「外環の２・話し合いの会」
構成員・提出資料

石原知事の・記者会見時・発言(12/22)に対する質問書　　提出者：古川英夫

下記に示す「やり取り」が年末の都知事・記者会見で発表されました。重大な問題です。
（先ずは　下記の下線部分　特に二重下線部分をお読みになり　次頁に移って下さい）

石原知事記者会見〈平成 23 年 12 月 22 日〉　東京都ホームページより（外環部分のみ抜粋）

【記者】外環について。先週もちょっとお伺いしたのですけれども、地上の街路について、先週お伺いした時、知事、現地を見てみないと分からないとおっしゃったのですが、知事が初当選されて、1期目の時にご覧になられた吉祥寺の辺りの、まさに外環本線の真上に都道、幅員40メートルの都道をつくるという話なのですけども、そうすると、結局、地上の用地買収が必要になるということであれば、外環本線も多額な事業費をかけて、大深度地下（地中の構造物等より下の部分で、通常利用されない地下空間）につくらずともいいのではないかというような矛盾を感じるのですけれど、そこはいかがでしょうか。

【知事】その問題、私、あまりつまびらかにしていないんで、もう一回、都市整備局に聞きますが、私が現場見た時は、ここへつくるといって、家を改造することもできず、立ち退くわけにいかず、半殺しになっているようなレベルの住宅がずっと続いていましたよ。その地下に、結局、通さざるを得ないと私は思ったんだけれども、更にその上に、新しい都道をつくろうと言うの？

【記者】もとの都市計画決定、高架方式で最初に都市計画決定した時に、高架の側道としてつくる都道がまだ残ったままになっているんです。それを……。

【知事】道路計画として、今、残っているの？

【記者】ええ。それを今、各沿線自治体ごとに都の方で話し合いの会というのをやっているのですけれども。

【知事】そうですか。詳しい報告は聞いていませんが、問題があるなら、もう一回現場行って、確かめてきますけれども。いずれにしろ、話はそれることになるかもしれないが、地下で外環つくった時に、どこかにジャンクションをつくらないといけませんな。その周りの土地の収用というのは当然必要になってくると思いますけれども、最初、杉並区長は「ジャンクションは要らない」と言ったけれど、この頃、また指針も変わってきたようですが、いずれにしろ、外環は、新しい公共事業が起こる時に、多少の犠牲伴わざるを得ないけれども、それをうまく整理し、完成することが、東京だけじゃなく、国益につながると思いますんで、再三申しているみたいに、それができないと、一旦緩急の時に東西が分断されることになりかねませんから、絶対に必要なインフラだと思うし、東京のためじゃなく、日本全体のための問題ですから、そういう問題が出てきているのであれば、私、もう一回現場行って、確かめます。

【記者】外環についてもう1点。2020年までに、練馬－世田谷間を完成させるということなのですけれども、1兆3，000億円、4，000億円でしたか、その事業費をならすと、年間千数百億円の予算がつかないと、2020年までには完成しないと思うのですけれども、そこはいかがでしょうか。
【知事】それは、国と都の分担というものがあるでしょうから。しかし、個人でなく、新聞として、外環の意味合いはどう考えているのよ。
【記者】もともとPIが始まる時には……。
【知事】PIって何？
【記者】パブリック・インボルブメント（住民参加）の……。
【知事】日本語で言ってくれよ、そんなものは。
【記者】都の方でPIというふうに言っていたのですけれども……。
【知事】俺、英語、よく分からないからね。
【記者】特集記事を組むなり、それなりに住民参加で道路計画を造っていくという事については賛同していたと思うのですが。
【知事】住民の参加も必要だし、住民の反対もあるだろうけど、了解というのを最後に得なかったら、だめだと思います。

第３回　杉並区「外環の２・話し合いの会」
構成員・提出資料

●この記者会見でのやり取りは重大な意味を持っていると思います。即ち外環道計画の一番の推進者である石原都知事が『外環の２』の存在を認識されていないという事です。外環の２は東京都の中でも『都市整備局』が単独で推進していることが明確になりました。私達は今迄に　この「話し合いの会』の席上、何回も　石原知事発言について指摘して来たにも拘らず真剣に取り上げて貰えずこの様な結果になってしまったと考えられます。以下に小口課長宛て　に質問状を提出しますので　その回答を来る２月１日の「外環の２・話し合いの会」の席上で報告をお願い致します。

石原発言(12/22)について　小口課長への質問状

① この「話合いの会」の宿題：「石原知事発言の真意の確認」は進められていたのか？

この話合いの会で　私達は　第１回、第２回と石原知事と小口課長の発言内容のギャップについて指摘し　特に前回〈第２回〉においては　次回〈第３回〉の会の時に宿題の報告事項と言う事で『石原発言の真意について』　報告して貰うことになっていた筈である。

私達の前回〈第２回〉の会合開催は　10月25日であり、石原知事の記者会見は12月22日であったから　この間に約２ヶ月の期間が有ったものである。

小口課長は私達から出された『石原知事の発言の真意の確認作業』は　この２ヶ月間に進められていたのか？　もし実施されていたのなら　必ずや　「外環の２」の事が　知事との間で話題になり今回の知事発言の様な　「知事に大きな恥をかかせる様な事」は無かった筈である。

とすると　小口課長は会の開催される本日〈2月1日〉の第３回話合いの会迄の期間内に石原知事に『今までの発言の真意』の確認作業を一体どんな風に行う積りであったのか？或いはその積りはなかったのか？聞かせて欲しい。

② 結局、知事と都市整備局の話し合いで『外環の２』はどうなったのか？　都の方針発表は？

今回の知事発言で外環の２について知事は全く認識していなかった事が露呈した。おまけにPIの意味も御存じなく　また都市整備局とのパイプが　どの様なものかも皆が認識する事となった。とすると都市整備局の独走で「外環の２」を進めて来たということか？　一体、局内の誰の指示で動いていたのか？「外環の２」の推進は一体どのような指示系統の流れで動いていたのか説明して欲しい。知事も認識されていない事を　部下が勝手に動いて進める事…こんな事が有って良いのだろうか？

本来なら　あの様な出来事が有った以上　今日の会合も都からの指示で一時ストップ。『都からはっきりした連絡が有る迄　待機して欲しい』となって　しかるべきでないのか？あたかも何事も無かったような顔をして　漫然と　「外環の２・話し合いの会」を進める積りなのだろうか？

あの記者会見以後、都では一体どんな動きをし、都知事と都市整備局の間でどの様な話が為され　結局、外環の２は　都として、今後　どうすることに決まったのか？　その発表はないのか？　その発表が本日、この場で行われても　然るべきでないのか？

今回の様な　大きな事件が有ったのであれば　都知事自らが『外環の２の進め方・基本方針』なるものを発表すべきものである。今日、この会場に知事本人が出席され　説明が有っても良い位である。この様な事は　小口課長が動かない限り　他には誰も動かさないのではないか？
知事への報告は第一戦の課長が動かない限り　届かないことを認識するべきだ！

ここで　質問を　繰り返したい。
「あの記者会見以後、都では一体どんな動きをし、都知事と都市整備局の間でどの様な話が為され　結局、外環の２は　都として、今後　どうすることに決まったのか？　」

③ 立ち退き多いので　本線は地上には造らないが　外環の２は地上に造るという　無理な論理

石原知事が「もう地上には　道路は造らない」（道路は造れない）との発言は『知事が本線に対して発言したもので　外環の２に対して発言したものではない…』という説明を小口課長は平然として　何回も　繰り返し説明しています。これは全く理解出来ません。

立退き対象者が多いので　本線の場合は　地上には無理だが　地上部街路〈外環の２〉の場合は　地上でも可能である…という理屈はおかしい？　のではありませんか？

全く同じ事が　平成14年に出された『東京環状道路・有識者委員会』の　最終提言にも言えます。 この委員会の最終提言では『立退き戸数を一戸でも少なくすることが必要である。従って基本はインターチェンジ無しとする。…と説明しているのです。という事は　立退き戸数を　極めて多く出す「地上部街路」の存在など考える事は出来ないのではありませんか？

小口課長は『有識者委員会』は　本線の為の委員会なので　最終提言で記されている『立退き戸数を一戸でも少なくすることが必要である』ということは　外環の２の場合は　適用されないと言われるのですが　全く納得が行きません。

凡人にも　理解出来る様、判り易く説明して下さい。どうしてなのでしょう？

以上